

名張 赤いだけ

●編集発行●

名張市総務部総務室市史編さん担当
〒518-0718 名張市丸之内54・8
☎0595・64・2249

NABARI HISTORY LETTER
No. 10
平成25年2月3日

東香水講

お水取りを支えるもう一つの講社

お水取り行事を支える

関西に春をつげる東大寺二月堂のお水取り行事は、2月20日の別火から始まります。正しくは修二会と呼ばれ、旧暦の2月に行われる法会のことを指します(ちなみに旧暦一月に行われる法会は修正会といえます)。

修二会は、練行衆と呼ばれる11人の僧侶が中心となって二月堂にこもり、本尊の十一面観音に悔過(罪の懺悔告白)



もう一つ修二会を支える圓玄講社が市内にあることをご存知でしょうか。それが「東香水講」と呼ばれる講社です。講員は山添村、伊賀市、名張市

をし、世の中の平和と安泰、人々の幸福を祈るもので、今年で1262回を数える途切れたことのない「不退の行法」です。よく知られている二月堂の舞台から火の粉を散らす「籠松明の上堂」は本業にあたる3月1日から3月14日までの2週間にわたり毎夜行われます。

この修二会の達陀行法に使用される松明木を鎌倉時代から760年にわたり寄進している「伊賀一ノ井松明講」は、市の無形民俗文化財でもあり、よく知られています。

にまたがっています。東香水講は、3月13日の午前1時半ごろから行われる「お水取り」の行法で、二月堂前の「閼伽井屋」(若狭井)を覆う建物)に赴き、若狭の水(香水)を汲み、本尊にお供えをする練行衆の先達(案内)を「河内永久社」という別の講社と共に勤めます。

東香水講の役割

お水取りの行列は、春日大社の雅楽の演奏により、「咒師松明」(重さ約80kg)を先頭に練行衆が続きます。

その後、東大寺境内にある手向山八幡宮の御幣をもった東香水講(あるいは河内永久社)の講員が、香水桶を担ぐ「庄厳土」を先導するという神仏習合の行法です。特に閼伽井屋の前では、松明や照明などすべての明かりが消され、暗闇の中で唯一掲げられた東香水講の提灯のみが照らされ、肅々と執り行われるとても神秘的な行法です。毎年、深夜にもかかわらず多くの見学者がこの行法を静かに見守ります。

講社の役割は、それぞれ5人(現在は6人ずつ)が西暦の奇数年は東香水講が御幣を持ち、列の右側で手松明を持ち警護にあたり、河内永久社はスワエと呼ばれる柳の杖を持ち左側を受け持ちます。両講社は年毎に役割を入れ替えています。



3月13日午前1時半ごろから行われる「お水取り」の行法で、練行衆(僧侶)を先達(案内)する東香水講の講員

特筆すべきは、数多くの講社がある中で、この2つの講社の10人(現在は12人)だけが厳肅な香水汲み上げに直接携われる講社ということ。また、市内には東香水講に関する記録として、蔵持町里のシヤックリ川近くに明治二十四年(一八九一)に建立された「二月堂御供田記念碑」が残されています。碑文には、蔵持地域の人がお水取りのために浄財を寄進したことが刻まれています。

名張の一部が東大寺の荘園となつて今年で1258年。今も東大寺とのお付き合いが続いているのです。少し悠久の歴史を感じながら「お水取り」という行事を覗いていただけたら、より東大寺が身近に感じられるのではないのでしょうか。

市史編さん担当より

好評発売中

第2巻「名張市史資料編 古代」

書籍版 5,000円

CD-ROM版 1,500円

古代の名張や伊賀に関する資料を網羅的に掲載(650ページ)。お求めは、総務室市史編さん担当(丸之内54・8/名張藤堂家邸隣)、市役所2階総務室で。郵送も可。第1巻「名張市史資料編 考古」、「おきつもの名張 今と昔」も販売中。詳しくは、市史編さん担当(☎64・2249)へ

返事が必要な場合、必ずお名前とご連絡先を書き添えてください。HPや広報紙上でのみの回答はしていません。

市長への手紙

〒

ご住所

お名前

性別 男・女 年齢 歳

電話番号 ()

メールアドレス

この手紙を(公開して良い・公開されたくない)この手紙に対する返事(必要・不要)《ご意見・ご提言》

(件名)

(具体的な内容)

のりしろ